

神にあって生きる

現在、教会に来られている方たちにも、神様との出会いがありました。第18回目は、NUさんにその経緯を語っていただきます。

宝塚へ来てから三か月ほどしたころ、家のポストに、宝塚栄光教会の案内のチラシが投函されていました。

そのころは、内心疲れ切っていました。それどころか、子どもに伝えてあげられるものなど何もない、空っぽの状態でした。『絶対的な存在を求める場所=教会』なんて思ってもいませんでしたから、一度はそのチラシを捨ててしまいました。しかし、やっぱりあの教会のチラシが気に入り、ごみ箱からチラシを拾い直し、家の窓から教会の方向を眺めては、また何度か教会の前を歩き来し、礼拝へ出てみたいけれど、あまり宗教とは関わらないほうがいいのではという思いと葛藤していました。

ほどなく、思い切って礼拝へ出席してみました。初めのころは、日曜日の午前中、礼拝へでかけることで、夫からどのように思われてしまうのか心配しつつも、「教会へ行きたい!」という思いのほうが強くなり、教会へ通い続けました。

牧師夫人と二人でお話した時、魂の救いについて説明してくださいました。私は、安堵の涙がドット(鼻水も)出て、わんわん泣いていました。

聖書が語っている神様の愛は、人間の中にある自我という罪の束縛から解放し救うために、イエス・キリストを地上に送ってくださり、十字架で

救いを成し遂げられたこと。そして、その十字架の死は私のためのものであること。これからは、自我に振り回される生き方ではなく、新しく創り変えられたものとしての生き方が、約束されていることを話してくださいました。

そして、神様の前に今までの罪を告白し、イエス・キリストの十字架の死は私の身代わりだったと信じ、洗礼を受けてクリスチャンとなりました。

聖書のみ言葉は、癒し、慰め、励まし、強め、助け、時に鋭く自我に光を当て、真理を教えてくださいました。「神様、今日も真っすぐにあなたが教えられるようにおられることを聞かせてください」と願いつつ、聖書のみ言葉の前に向かう時、聖書に書かれている内容は、これからどのように、そして何に向かって生きていったらいいのか、教えてくださいました。

今は、宝塚から遠く離れた東京に住んでいますが、クリスチャンとしての20年を振り返ると、分らずに下を向いてしまうような時にも、雪国での生活に心折れそうな時にも、今までずっと神様が励まし続けてくださり、支えてくださっていたことを覚え、感謝の思いでいっぱいになります。



永遠への思い

“人間が、他の動物と決定的に異なるところは何か”。ある人から、そんな質問をされたことがあります。あなたはどのように思われますか。答えは、聖書の中にあります。聖書はこう言います。「神はまた、人の心に永遠を与えられた」(伝道者の書3章11節)。別の訳では、「神はまた、人の心に永遠を思う思いを授けられた」とあります。心に永遠を思う思いが与えられたとは、神を慕う心が与えられたということであり、また救いを求める思いが与えられたということです。

動物愛護家の方からは、お叱りを受ける言い方も知れませんが、動物が魂の救いを求めて神に祈る姿を、私は見たことはありません。永遠への思いは、神が人間だけに与えておられるものです。なぜなら、私たち人間は神のかたちに造られたからです。

神のかたちに造られた私たちは、神から離れては生きていけません。それにもかかわらず、私たちは神を侮り、神を忘れ、自分勝手な道を歩んできました。神などいなくても、十分生きていけると思いこんでいました。しかし、神から離れた私たちには本当のいのちはなく、たとえ幸せそうに見えても、真の満足のない、干からびた人生なのです。

この神から離れているということが、聖書の言う罪なのです。罪とは神への反逆です。反逆しているつもりがなくても、心がまことの神に向いていなかったら、反逆しているのと同じなのです。

そして、神に逆らったままでは、私たちは滅んでしまうのです。そこに気がつけば、誰でも滅びたくない、救われたいと願うでしょう。その願いが、永遠への思いに直結するのです。

イエス・キリストは、その願いを実現するためにこの世に来られ、十字架にかかられました。私たちの罪を一身に背負い、私たちの身代わりに十字架で死なれたのです。私たちが自分の罪を悔い改め、キリストが自分のために十字架にかかってくださったと信じるなら、誰でも、どんな罪も赦され、永遠のいのちが与えられて救われます。

あなたの心の内にも、永遠を思う思いが与えられているはず。その思いを眠らせておいてはなりません。人間らしい生き方は、せつかく与えられた永遠への思いを生かし、キリストによって罪が赦された者となり、神に向かって生きていく生き方です。あなたにも、そんな生き方をさせていただきたいと願います。

教会の5月の庭

爽やかな風が吹き抜ける頃となりました。教会の庭の様子も変わりました。



色とりどりの花

コクテール

サンザシの花

ぶどうの若葉

アンネのバラ

宝塚栄光教会

牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail : info@takara-eikou.com http://www.takara-eikou.com

希望のダイヤル (聖書のお話)

0797-77-3746

毎週更新。24時間つながります。ホームページからも利用できます。

礼拝 毎週日曜日

第一部 9:30~10:30

第二部 11:00~12:00





「ヒトツバタゴ ー初夏に咲く雪の花ー」

信州の高い山々は 5月でもまだ 雪をまとっていた
「信州まつもと空港」の周囲に 整備された公園
「信州スカイパーク」で ヒトツバタゴの木を見た
青い空を背に 枝を張り ゆうゆうとそびえ立っていた

5月 そろそろ ヒトツバタゴの木に
白い花が 開き始める頃である
この花は プロペラのような形をしていて
満開になれば 白い雪が積もったように 枝をおおっていく
朝日が葉を照らすと 純白の花が 光を反射して 輝いている

別名 「なんじゃもんじゃの木」と 呼ばれる
「なんというものか?」 「あの木はなんじゃ?」 という意味で
名前のわからない木を 呼んだそうだ
ヒトツバタゴだけでなく そのように呼ばれている木は 多い
怪木や珍木の 愛称のようだ
「あんにゃもんじゃ」とも 呼ぶらしい

和名は 「一ツ葉タゴ」と書く
タゴとは 同じモクセイ科の トネリコを指す
日本では 愛知県 岐阜県 対馬にだけ
自生しているという 希少種であり
絶滅危惧種(レッドリスト)に 指定されている

地の王国よ 共に神に向かって 歌い
主にほめ歌を うたえ
いにしえよりの 高い天を駆って進む方に
神は御声を 力強い御声を 発せられる

詩編68編(聖書)